

ナチス・ドイツによる強制収容と犠牲者数に関する研究 ～ポーランド南部及び東部の現地調査を通じて (IV)～

青山貞一（東京都市大学環境情報学部）、池田こみち（環境総合研究所）

第2次世界大戦中、欧州ではナチス・ドイツによってポーランドを中心に、ドイツ、オーストリア、リトアニア、ラトビア、エストニア、イタリア、フランス、オランダ、ベルギー、旧ユーゴ、旧ソ連、ウクライナ、ベラルーシなどの国々に、いわゆる強制収容所が多数設置、運用され、ユダヤ人を中心に多くの人々が犠牲となった。本論では、ポーランドのアウシュビッツ、ビルケナウ、マイダネク、ソビボル、ベルゼック、トレブリンカなどガス室・焼却関連施設をもつ大規模な強制収容施設について、現地実態調査をとりまとめるとともに、さらに関連各国における第3者による歴史考証や実態調査、さらに収容所、収容数、犠牲者数に関する文献・資料調査をもとに、ポーランド及び欧州各国の主要収容所を現地視察、現地資料収集することにより犠牲者数の推計を試みた。

■マイダネク強制収容所

2009年3月12日、ソビボル絶滅収容所の跡地を視察した後、マイダネク(Majdanek)強制収容所に向かった。一旦、ルブリン市内に入り、再度、国道17号線の反対側からマイダネクに向かう。マイダネク強制収容所は、ルブリンの南東約3kmの国道17号線沿いにある。マイダネク強制収容所は、かのビルケナウ強制収容所よりも広く、約270ヘクタールもある。



マイダネク強制収容所（今は博物館）の標識

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.12

マイダネク強制収容所（Majdanek、正式にはルブリン強制収容所）は、ナチス・ドイツが第2次世界大戦中に設置した強制収容所の一つでポーランド東部のルブリン郊外に位置する。ナチスの親衛隊（SS）がつけた正式な収容所の名称は、ルブリン強制収容所であったが、周辺住民たちは、この収容所を近隣の村マイダンの名前をとって「マイダネク」と呼び習わしていた。戦後はこの名前が有名となった。

マイダネク強制収容所は何しろ広い。あのアウシュビ

ッツ2、ビルケナウ強制収容所よりも広いのだから当然だ。上述したように270ヘクタールもある。実際、中に入ってみるとその広さを実感する。マイダネクは、ベルゼック、ソビボル、トレブリンカのポーランド東部の3大絶滅収容所に近い位置にある。下図は、周辺のゲットーをもつ都市からマイダネク強制収容所や3大絶滅収容所に送り込まれる関係を示している。



ポーランド東部、南部のゲットーから4大強制収容所にユダヤ人らが輸送された経路

マイダネクの近くには、北東にソビボル絶滅収容所、南東にベルゼック絶滅収容所、北にトレブリンカ絶滅収容所の3大絶滅収容所が存在しており、ポーランド内外のゲットーなどで逮捕され、鉄道で移送されてきた囚人はマイダネクの敷地近くの引き込み線で降ろされ、選別所に向かわされた。

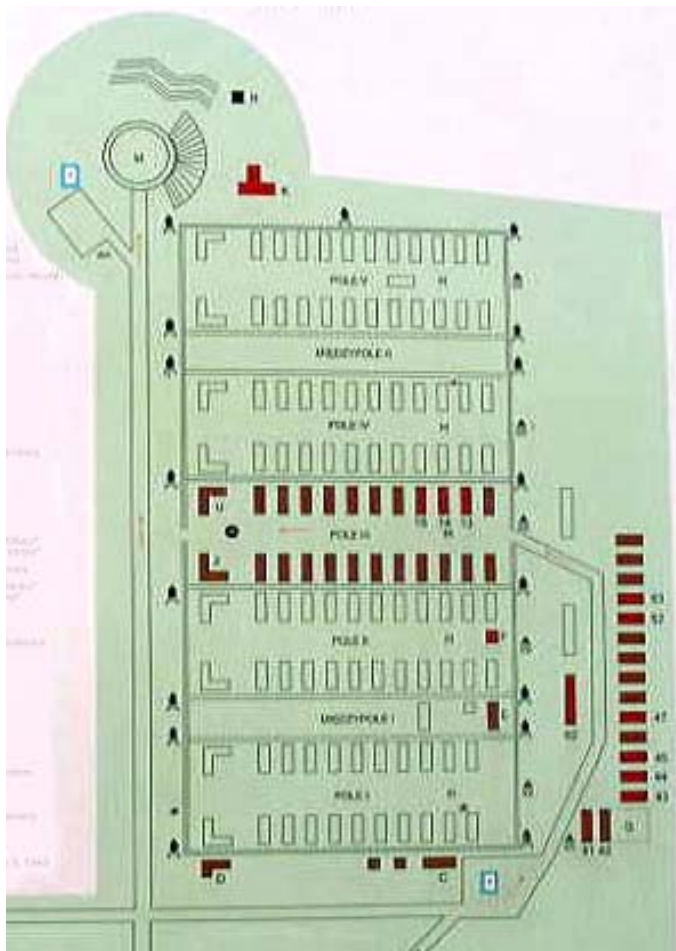
●マイダネク強制収容所の施設概要

マイダネクでは、他の収容所同様に輸送されてきた囚人をすぐに<選別室>で選別し、労働として使える者とそうでない者（病弱者、病人、高齢者、その他）に選別した。後者は近くにあるガス室に送られて殺害され、

＜人体焼却炉＞で焼却された。収容施設は通称＜バラック＞と呼ばれている。バラックの一角の＜L字型施設＞は＜囚人用のトイレと台所＞、図中、右側に縦に並んでいる黒色の長方形は、元々強制収容のためのバラックの一部であるが、現在、バラックを利用し展示施設として使っている。

展示施設の最下段の左にある2つの黒色の長方形が＜ガス室＞である。ここで多くのユダヤ人など囚人として連れてこられた人々が殺戮されたという。また最上部の丸い部分(M)がマイダネク強制収容所で殺害され焼却されたひとびとの灰を護る大きな＜霊廟＞である。

霊廟の右側にある茶色が現存する＜前置室＞と＜人体焼却炉＞である。ガス室で殺害され、飢えや病気、拷問などで死亡した囚人はこの人体焼却炉で燃やされ灰となった。焼却炉は奇跡的に破壊を免れ今でも実物を見ることができる。ただし、建物は再建されたものである。



マイダネク強制収容所の全体図

●マイダネク強制収容所の歴史

マイダネク強制収容所単独の規模（広さ）では、ポーランド随一である。マイダネクは、SSの全国指導者ハインリヒ・ヒムラーの命を受けたルブリン地区の親衛隊・警察高級指導者オディロ・グロボクニクにより1941年秋から建設工事が開始された。建設作業は1942年5月まで急ピッチで進められ、その後、拡張作業が行われ、最終的には1942年の冬に竣工した。どこの収容所もそうだが、建設工事期間は半年であり、いずれも1942年

から1943年に集中している。1942年5月時点でのマイダネクの規模は実に273ヘクタールに達している。



雪が残る現在のマイダネク強制収容所
撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.12

マイダネクでも他の強制収容所と同様、非常に厳重な警備態勢が敷かれていた。高さ4メートルの木の柱を一定間隔で立ててその間を有刺鉄線で結びつけてフェンスとし、一定間隔に機関銃を備え付けた監視塔を設けていた。SS隊員が看守であり、警察犬として200頭のシェパードも飼われていた。



マイダネクのバラック。現在は展示館として活用
撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.12

収容所建設作業が開始されてから間もなく最初の囚人移送があった。

1942年5月の頃には収容者が4万人になっていたとみられ、1943年夏にはSSの全国指導者ハインリヒ・ヒムラーがマイダネクの視察に訪れている。

他の強制収容所と同様にドイツの戦況が深刻化するにつれ、食糧が不足して常時餓死者が発生するようになった。生きている人々も骨と皮だけになるか、飢餓による鼓腸を起こして異常に腹が膨張するか、どちらかの状態になっていった。終戦直後、ソ連軍が同地を占領するまでの36カ月の間にユダヤ人やロマなど7万9千人もの

人々が殺害・餓え・過労などにより死亡させられた。私たちが最初に向かったのは、マイダネク強制収容所で殺害され焼却されたひとびとの灰を護る大きな霊廟である。



マイダネクに強制収容され帰らぬ人となった人々
Source:United States Holocaust Memorial Museum

最初に向かったのは、マイダネク強制収容所で殺害され焼却されたひとびとの灰を護る大きな霊廟である。



マイダネク収容所にある灰を護る大きな霊廟
撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.12

下は霊廟の円形ドームの下にある焼却された人体焼却後の灰である。



円形ドームの下にある焼却された人体焼却後の灰
撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.12

●マイダネク強制収容所の殺戮と焼却の実態

マイダネクには稼働最盛時、ガス車1台と6つのガス室が設置されていた。ガス殺にはチクロンBと一酸化炭素が併用されていた。1度に2,000人近くガス殺することが可能であったとされている。そのガス室は1942年10月から1943年秋にかけて本格的に稼働していた。

ガス室の隣では移送されてきた囚人の第一次選別が行われた。マイダネクはアウシュビッツと同様、強制収容所と絶滅収容所の側面を兼ね備えた収容所であった。



マイダネク強制収容所のガス室の前で
撮影：池田こみち Nikon Cool Pix S10 2009.3.12

まだ働ける者は働かせる一方、飢餓や看守の暴力で衰弱した者、チフスに罹った者、そしてナチスにとって死んだ方が都合な者などはガス室へ送られたのであった。

労働力になる者にはシャツが与えられ収容施設に向かわされたが、そうでない者は次の部屋、すなわちガス室に送られたという。最初のガス室では裸にされ、髪の毛を切られた。次にシャワー室に送られた。これは体を洗うためではなく、体温を上げることで毒ガスの浸透力を高め、短時間の内に大量の囚人を効果的に殺戮するためとされている。さらにガス室に温風を送る方法も考えられた。

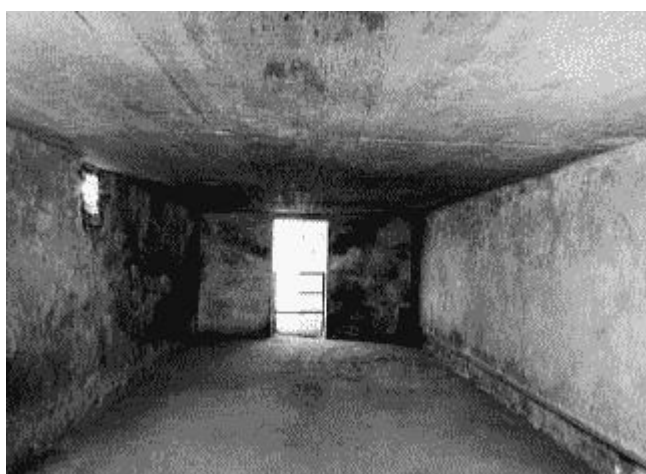
もうひとつのガス室は壁が低く(半地下)になっており、構造もレンガとコンクリートの構造となっている。次頁の左下の写真にある鉄の扉には小さな窓がある。それは中の様子を見るためのものだった。すなわち死体を運び出すタイミングを計るための覗き窓であった。

ガス室などで殺害された囚人は、焼却炉群の隣にある前置室に送られた。この前置室には、石造りの処置台がある。ここで遺体から金歯、銀歯を外し、呑み込んでいた貴金属がないかどうか死体を解剖して調査したという。死体置き場には、多数の死体が山積みとされ、隣にある巨大な人体焼却施設で焼却されるのを待った。当初、死体は焼却炉の北側に埋められていたが、ソ連軍の接近に伴い、証拠隠滅のために死体が掘り起こされて改めて焼却された。



マイダネクに残る前置室

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.12



マイダネクにあるガス室の内部

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.12

以下はかろうじて証拠隠滅のための破壊を免れ、当時のままの状態に残っているマイダネクの焼却炉群。



マイダネクに現存する焼却炉群

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.12

終戦後、マイダネクでは以下の写真にある形で焼却炉が発見された。現在、私たちが見る焼却炉は当時のままだが、建築物は再建されたものである。



ソ連軍が終戦直後、マイダネクを占領した直後の写真
建築物はないが焼却炉が残っていた

Source: United States Holocaust Memorial Museum

下の写真は、マイダネクのガス室と焼却炉の前に立つ池田。内部にある焼却炉は往時のものだが、建屋は再建したものである。



ガス室、焼却炉施設の前に立つ池田こみち

撮影：青山貞一 Nikon Cool Pix S10 2009.3.12

●マイダネク強制収容所における犠牲者数

1944年8月12日のソ連の通信員ローマン・カルマンの報告によると解放時のマイダネクはこのような状態であったという。

「私はマイダネクで今まで見たことのないおぞましい光景を見た。ヒトラーの悪名高き絶滅収容所である。ここで50万人以上の男女、子供が殺された。これは強制収容所などではない。殺人工場だ。ソ連軍が入った時、収容所は生ける屍になった収容者が1,000人程度が残されているだけだった。生きてここを出られた者はほとんどいなかったのである。連日のように何千人もの人が送り込まれてきて残忍に殺されていったのだ。このガス室には人々が限界まで詰め込まれたため、死亡したあとも死体は直立したままであった。私は自分の目で見たに

もかわらずいまだに信じられない。だがこれは事実なのだ。」

ソ連から送られてきたこれらの報告を受けてイギリスの新聞『イラストレイティッド・ロンドン・ニュース』は1944年10月にマイダネクの収容者の写真を掲載するとともに次のように報道した。

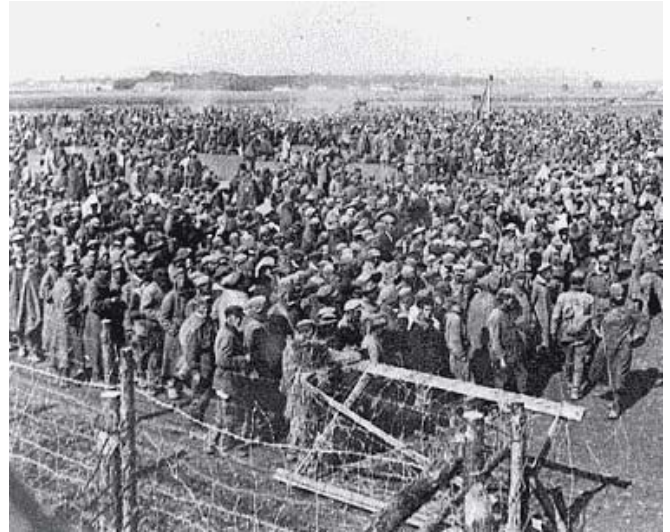
「余りに残虐な写真を掲載したことについて理由を述べたいと思う。本紙の読者は、ドイツ人が犯したこの残虐な犯罪について信じられないかもしれない。われわれの報道がプロパガンダと思うかもしれない。そうした懸念から写真掲載の必要があると考えたのである。これらの写真こそが60万人から100万人の人々がマイダネクで組織的に殺戮された動かぬ証拠である。掲載した写真だけでも残虐だがマイダネクの惨状はさらに残虐だったのである。」

上記によれば当初、犠牲者は最高100万人近くとされたが、これはアウシュビッツ同様、ソ連軍のプロパガンダとされており、現在は約15万人が連行され8万人が犠牲者で、そのうち6万人がユダヤ人であったとポーランド政府が公表している。実際、マイダネクのガイドが言っている「マイダネクでどれだけの人が殺され焼かれたかを正確に数えることは困難。現実的には8万人くらいであろう」と述べているが、これは公式数値を伝えている。

現地視察して分かったことは、残されていた焼却炉の実物を見ると、数と言い、ひとつひとつの炉の規模と言い、アウシュビッツ、ビルケナウのものよりも大きく、一日に1,000人以上を焼却していたという説も納得がゆく。さらに最初にマイダネクで死刑や処刑が行われたのが1941年7月であり、ソ連軍によって1944年7月に解放されるまでの期間に殺害が行われていたとすると、犠牲者は公表されている8万人よりもはるかに多いのではないかと推察できる。

最後に、日本ではアウシュビッツ系の強制収容所がマイダネク強制収容所や3大絶滅収容所よりもはるかに注目され、有名であるが、規模といい開設時期がアウシュビッツ系それに3大絶滅収容所より早いなど多くの点で、マイダネク収容所を重視している研究者らが多いという。

なお、マイダネク強制収容所では、生存者は別の収容所へ移送されており、1944年7月23日にソ連軍がここに到着した際にはわずかな囚人しか残されていなかったとされるが、右は1944年、マイダネク収容所が解放されたときの生き残り者の写真である。施設の多くも焼却されるか爆破されていた。ただ焼却炉だけはそのまま残っていた。



The survivors of Majdanek upon liberation, July 1944 Source: Israel Gutman, Encyclopedia of the Holocaust, Tel Aviv 1990
Source: United States Holocaust Memorial Museum

■ナチス・ドイツによるユダヤ人などの推定殺害数

本現地調査（視察）は、「戦争と人間」、「戦争と環境」に関連した公共政策論研究の一環として実施したものであり、現地調査には日本初の情報、資料、写真も多数含まれている。

今回の調査の目的のひとつは、ナチス・ドイツが欧州全体でユダヤ人などを殺害した数を推定することにあつた。現地調査及び各種文献資料調査を元に推計すると、ナチス・ドイツによるユダヤ人らの犠牲者は最大で645万人、最小でも420万人となった。そのうちポーランドで殺害された人数は、推定で最大592万人、最小で335万人である。ただし、上記の推計では、アウシュビッツ、ビルケナウ、モノビッツにおける最大の殺害数を250万人、最小の殺害数を現在の公称値である150万人としている。最大値と最小値の違いの最大の原因は、主にマイダネク強制収容所にある。これについても現地視察をもとに推察した。たとえば収容者数、施設の稼働年月、稼働日数、ガス室規模、焼却炉数（規模）、一日の想定焼却人数などから推計すると、現在の通説となっている約8万人よりはるかに多いのではないかと思える。結局、具体的な数値を出すまでには至らなかったが、30万人前後と推察できる。ポーランド国内でナチス・ドイツにより殺害された犠牲者の数は欧州全体で殺害された犠牲者の80%から92%となる。いかにポーランドでの殺害数が多いかが分かる。今回の視察ではその大部分の施設を訪問したことになる。

本論考では、クラクフ近い有名なアウシュビッツ、ビルケナウ強制収容所だけでなく、日本ではあまり知られていないルブリン近郊のマイダネク強制収容所、ウクライナ、ベラルーシ、リトアニアとの国境沿いにあるベルゼック、ソビボル、トレブリンカの3大絶滅収容所についても犠牲者の推計上、考慮している。

表 ナチス・ドイツが欧州で殺害したユダヤ人などの国別、収容所別の推定値 単位：人

Name of Camp	1938	1940	1941	1942	1943	1944	1945	Total	
Poland *Red marking means a field survey candidate of visiting in Poland for 7-15 March 2009									
Auschwitz								1,500,000	
Auschwitz II Bercenau				175,000	160,000	585,000		~ 2,500,000	
Auschwitz III Monavitz									
Majdanek			78,000Min - 360,000 - 1,500,000Max						78000 ~ 1,500,000
Belzec				80,000				434,508	
				445,000					
Gross-Rosen- Rogoznica				40,000				40,000	
Treblinka I						300-700		870,000 ~	
Treblinka II				870,000~920,500				920,500	
Kulmhof - Chelmno				152,000				152,000	
Sobibor				100,000				250,000	
Dachau								25,613	
Germany									
Dachau			28,000					28,000	
Bergen-Bersen							10000 ~ 35000	35,000	
Buchenwald						56,000		56,000	
Neuengamme	56,000							56,000	
Holland									
Amersfoort				77				77	
Vught				329+749				1,078	
Austria									
Mauthausen				100,000				100,000	
Sachsenhausen	1,800							30,000 ~35,000	
France									
Drancy								3,000	
Natzweiler-Struthof								10,000 ~12,000	
Russia(USSR)									
Citadelle								1,000	
Ventugen								54,000	
			41,828					41,828	
				363,211				363,211	
Baltic Countries									
Estonia			963					963	
Latvia			35238					35,238	
Lithuania			138421					138,421	

出典：青山貞一、池田こみち、ナチス・ドイツによる欧州各地の強制収容及び犠牲者数の推計
～ポーランド内主要施設の現地調査を通じて～、2009年7月

<主な引用・参考文献>

- 1) 青山貞一、公共政策論「戦争と環境」、ポーランド内ナチス強制収容施設 現地視察計画資料、武蔵工業大学
(2009年4月1日より東京都市大学) 環境情報学部、2008年3月
【ポーランド南部の強制収容所 視察】 <http://www.eritokyo.jp/independent/today-column-poland.htm>
- 2) 青山貞一・池田こみち：2009年3月10日：クラクフからアウシュビッツへ
- 3) 青山貞一・池田こみち：2009年3月10日：アウシュビッツ収容所の施設概要
- 4) 青山貞一・池田こみち：2009年3月10日：アウシュビッツ収容所の歴史を知る
- 5) 青山貞一・池田こみち：2009年3月10日：死の壁・集団虐殺実験・断種実験
- 6) 青山貞一・池田こみち：2009年3月10日：強制連行・収容・虐殺・飢餓・遺品
- 7) 青山貞一・池田こみち：2009年3月10日：絞首台・前置室・人体焼却炉
- 8) 青山貞一・池田こみち：2009年3月10日：アウシュビッツからビルケナウへ
- 9) 青山貞一・池田こみち：2009年3月10日：ビルケナウの強制収容施設に入る
- 10) 青山貞一・池田こみち：2009年3月10日：ビルケナウの焼却施設を調べる
- 11) 青山貞一・池田こみち：2009年3月10日：アウシュビッツ・ビルケナウへの鎮魂
【ポーランド東部の強制収容所 視察】 <http://www.eritokyo.jp/independent/today-column-poland.htm>
- 12) 青山貞一・池田こみち：2009年3月12日：東部の3大収容所、ベルゼック
- 13) 青山貞一・池田こみち：2009年3月12日：東部の3大収容所、ソビボル
- 14) 青山貞一・池田こみち：2009年3月12日：東部の3大収容所、トレブリンカ
- 15) 青山貞一・池田こみち：2009年3月12日：マイダネク強制収容所の概要
- 16) 青山貞一・池田こみち：2009年3月12日：マイダネク強制収容所の歴史
- 17) 青山貞一・池田こみち：2009年3月12日：マイダネク強制収容所の実態
- 18) 強制収容所、Wikipedia (日本語版、英語版、ポーランド語版)
- 19) アウシュビッツ・ビルケナウ案内書、国立オシフィエンチム博物館、2008年版
- 20) アウシュビッツ (強制収容所)、Wikipedia (日本語版、英語版、ポーランド語版)
- 21) ビルケナウ (強制収容所)、Wikipedia (日本語版、英語版、ポーランド語版)
- 22) ベルゼック (強制収容所)、Wikipedia (日本語版、英語版、ポーランド語版)
- 23) ソビボル (強制収容所)、Wikipedia (日本語版、英語版、ポーランド語版)
- 24) トレブリンカ (強制収容所)、Wikipedia (日本語版、英語版、ポーランド語版)
- 25) マイダネク (強制収容所)、Wikipedia (日本語版、英語版、ポーランド語版)
- 26) 地球の歩き方、チェコ・ポーランド・スロバキア、ダイヤモンド社、2008年5月版
- 27) 「特別行動部隊Aによって実行されたユダヤ人処刑」、Wikipedia
- 28) 囚人処刑に関するヒムラーからヒトラーへの報告書第51号 (1942年12月)、Wikipedia
- 29) Scrapbookpages.com <http://www.scrapbookpages.com/AuschwitzScrapbook/index.html>
- 30) ポーランド政府のナチス・ドイツ収容所関連の公式ページ